

野菜需給協議会幹事会の概要

平成24年9月6日に「野菜需給協議会幹事会」を持ち回りで開催しました。
その概要は以下のとおりです。

1 幹事会員に対する説明

- ・平成24年産夏秋野菜については、全般的に好天の影響から各産地の生育が良好で、出荷が順調に推移していることから、一部の品目を除いて価格が平年を下回っている。
- ・その中においても、夏秋キャベツ及び夏はくさいについては、それぞれの主産地において好天による順調な生育のため大玉傾向となり、出荷量が多くなったことから、価格が低迷し、お盆の休市前後を除き、市場隔離を実施する目安となる額をおおむね下回って推移している。特に、夏はくさいは、8月のO157による食中毒の発生の影響により、漬物会社から原料の契約取引のキャンセルが出るなど、需要が低迷している。

2 幹事会員から出された意見

- ・大産地においては、経営が良好な生産者が多いと感じている。まずは、自助努力をするべきではないか。
- ・夏はくさいについては、夏場の需要が減少している中、もっと計画的な生産が必要ではないか。
- ・現在のライフスタイルに合わせて、例えばミニはくさい等小型の野菜を生産するなどの供給体制へ移行する必要があるのではないか。
- ・難しいと思うが、余剰生産物の有効活用を産地としてもっと考えてもらいたい。
- ・消費者へのアピールは、具体的な需要等の数字を明らかにして、丁寧な説明を行うことが重要である。
- ・惣菜等の需要が増加していることから、生産側は消費拡大に向けて加工業者側ともっと連携をしていくべきである。
- ・O157の事件の影響があり、今は一般消費者ははくさいの漬物に手を出しにくいと思う。
- ・O157の事件を踏まえた漬物製造に当たっての対策は、業界でも色々と実施されていると思うので、それらについて、もっと情報発信してほしい。

3 野菜需給協議会としての対応

以上のような意見を踏まえ、野菜需給協議会として、別紙のような取組みを行うこととした。

野菜の計画的な生産と消費拡大の推進について

平成24年9月6日

野菜需給協議会

- 1 最近の野菜の卸売価格は、猛暑等の影響により夏期の野菜需要が低調な中で、好天により各産地の生育も良好で、出荷が順調に推移していることから、一部の品目を除き平均価格を下回っており、キャベツやはくさい等平均価格を大幅に下回っている品目もある。
- 2 これに対して平均価格を大幅に下回っている品目の産地側では、自主的な出荷調整や販売先の確保、消費拡大に向けた取組み等の努力を行っているが、極めて厳しい状況におかれている。
- 3 このような状況を踏まえ、
 - ① 生産者においては、今まで以上に夏秋野菜の需要動向に即した計画的な生産を行うこと
 - ② 消費者においては、野菜の摂取量が年々減少している中、厚生労働省が定める「健康日本21」〈第2次〉に定める目標（成人1日当たり350グラム）を目指して、野菜を摂取するよう心がけること
 - ③ 野菜需給協議会の会員においては、野菜の需給動向等の周知や野菜の消費拡大活動を更に推進することを、野菜需給協議会として呼びかけることとする。